学年	授業時数	教科	科目	教科書名	副教材
高３ (総合進学)	4	公民科	現代社会特講 (倫理)	『改訂版　倫理』 (数研出版)	『最新　倫理資料集　新版二訂』 (第一学習社)

1. 授業のねらい

⑴人間の尊厳と生命への畏敬、民主社会における人間のあり方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深めさせる。

⑵日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、日本の風土や伝統、外来思想の受容にふれながら、自己とのかかわりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としてのあり方生き方について自覚を深めさせる。

2. 授業の進め方

電子黒板やプリントなどを中心に授業を進める。2 学期は基礎学力到達度テスト対策も行う。また、ICT を活用した授業を進める。基礎学力到達度テスト後は、自主的な取り組みを通じ思考力や考察力などを養う授業も行う。

3. 学習上の留意点

高校１年生で学習した現代社会の倫理分野の継続科目となる。重要なキーワードとなる特有の用語を中心に、時代ごとの思想家や思想について理解することが大切である。

平成 27 年度から始まった基礎学力到達度テストは、従来の統一テスト同様「倫理、政治・経済」という科目で行われており、倫理の配点は 50 点である。統一テストと比較すると基礎学力到達度テストは平易な問題が多くなっているが、平均点は減少傾向である。しかし、倫理は政治・経済に比べ出題箇所に偏りがあり、ポイントを絞りやすい科目である。したがって、思想家とその思想家のキーワードや著書などを結び付けて覚え、得点につなげるようにしなくてはならない。

特に高校１年生で学習した青年期の課題、ギリシア思想、三大宗教や中国思想は、基礎学力到達度テストにおいて毎年出題されている。しっかり復習する必要がある。

4. 教科書・副教材

⑴教科書『改訂版　倫理』(数研出版)

⑵副教材『最新　倫理資料集　新版二訂』(第一学習社)

※用語集を購入したい場合は次の本がある。『用語集　倫理　新訂第５版』(清水書院)、『倫理用語集　第２版』(山川出版社）がある。収録語数は、おおよそ清水 3600、山川 3000 である。

5. 評価方法

⑴定期試験……定期考査３回（100 点×3 回）計 300 点

⑵平常点……1 学期 20 点＋2 学期 10 点　　計 30 点

※ノート（プリント）提出・課題提出などについてはその都度発表する

6. 定期考査

授業で扱った事項、試験前に指定した範囲からの出題の他、応用・発展問題を出題することもある。

7. 指導計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法 学習活動	到達目標
一学期	4 5 6 7 8	第２章　現代の思想 第１節　現代思想の流れ １　現代思想の幕開け ２　現代の実存哲学 ３　人間中心主義の問い直し ４　新たな「他者」関係の構築 ５　あるべき社会を求めて 第２節　現代社会と生き方 １　現代社会の分析 ２　「人間の尊厳」と「生命への畏敬」 ３　人種と民族 第４編　国際社会に生きる日本人としての自覚 第１章　日本の伝統思想と東洋思想の受容 第１節　日本の風土と古代日本人の考え方 １　日本の風土と社会　　２　日本神話の世界観 ３　神話と倫理 第２節　仏教の受容と展開 １　外来思想の土着化　　２　仏教の受容 ３　仏教の展開 第３節　儒学の受容と国学の発達 １　儒学の受容と展開　　２　国学の誕生 ３　庶民の思想　　４　幕末の思想 第２章　西洋思想の受容と近現代の日本の思想 第１節　近代の日本の思想 １　啓蒙思想と民権論 ２　国民道徳とキリスト教 ３　近代的自我の模索 ４　近代日本における哲学の誕生 ５　大正デモクラシーの思想 ６　昭和初期の思想と超国家主義 第２節　国際社会を生きる日本人 基礎学力到達度テスト対策 夏期休業	課題など 中間考査 課題など 期末考査	主体的に授業に取り組み、自ら調べ学習し、能動的に授業に参加する姿勢を身に付ける。 フロイトなどの人間観を学習し、近代合理主義の課題を考える。フランクフルト学派を学習し、自然と人間を道具化する文明について考える。 レヴィ=ストロースによる西欧優位の文明に対する構造主義の批判、フーコーによる理性と反理性といった考え方に触れる。シュヴァイツァーの生命への畏敬、ガンディーの非暴力主義の現代的意義を理解する。ロールズの正義論の立場などから社会的な平等や福祉のありかたについて考える。 日本の風土とそのなかで育まれた日本人の自然観の特徴、日本文化の基層を理解する。原日本文化の複合的性格や、アニミズムの宗教文化の特徴を理解できるようにする。仏教の移入と展開について学習する。倉新仏教の宗教思想の特徴を理解できるようにする。仏教的な伝統文化や美意識の形成を理解できるようにする。儒教の受容と展開について学習する。陽明学を説いた中江藤樹の思想を理解する。古学の思想を学習する。古学から国学への展開と、国学による自文化理解の特徴を学習する。朱子学に基づく江戸思想の多様な展開を理解する。洋学の発展と西洋に対する「和魂洋才」の態度について理解する。福沢諭吉や中江兆民の思想とその軌跡を学習し、日本近代化の内村鑑三の思想形成を通して、日本近代化の課題について考える。国家主義の台頭や初期社会主義の展開を通じて、日本近代化の課題について考える。夏目漱石の文学や大正デモクラシーの展開を学習し、日本近代化の課題について考える。西田哲学や和辻倫理学の形成について考える。柳田国男らの自文化理解のあり方を学習する。
二学期	9 10 11 12	基礎学力到達度テスト対策 問題演習、復習など 第５編　現代の諸課題と倫理 第１節　生命倫理　　第２節　現代の環境問題 第３節　家族と地域社会　　第４節　情報社会の功罪 第５節　さまざまな文化・宗教への理解 第６節　国際平和と人類の福祉 復習など 冬期休業	課題など 期末試験	基礎学力到達度テストに向けた問題演習を行い、実戦力を養う。 現代に生きる人間として、生命倫理、環境問題、家族と地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける課題について理解するとともに、これからに関する課題を探究し、思考力や考察力を身に付ける。

※シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により省略や前後することもありうる。